



高成長国 インドで積立投資

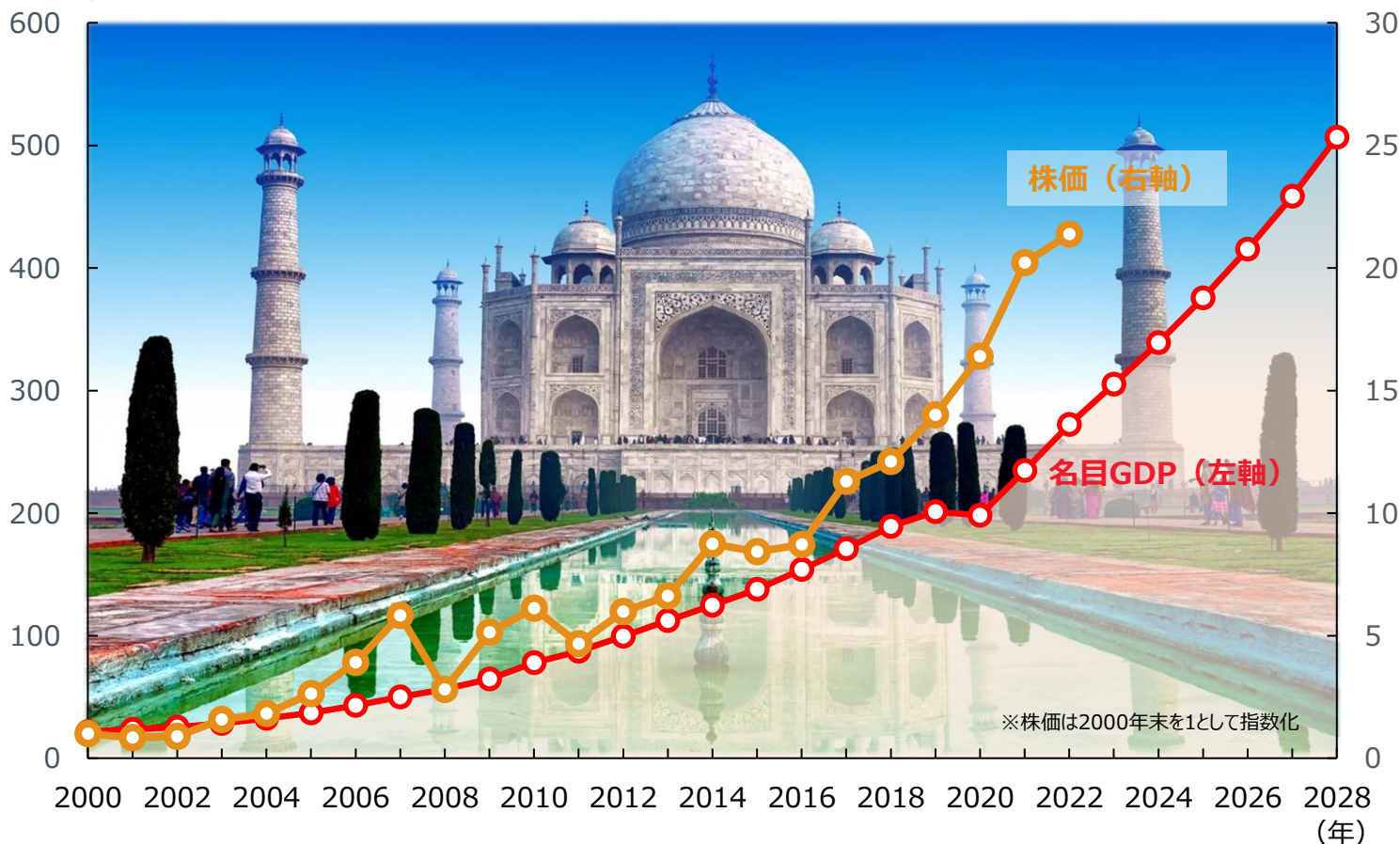
情報提供資料
2023年8月

～タイミングを意識しない積立投資はインド株式と好相性～

1 今後も高い経済成長が見込まれるインド ～経済成長とともに株価は大きく上昇～

インドの名目GDPと株価の推移（2000年～2028年*）

（兆ルピー）



出所：IMF世界経済見通しデータベース（2023年4月）、Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

*GDPは2023年以降は予測値、現地通貨ベース。株価はSENSEX指数（現地通貨ベース、ネット配当込み）、2022年末まで。

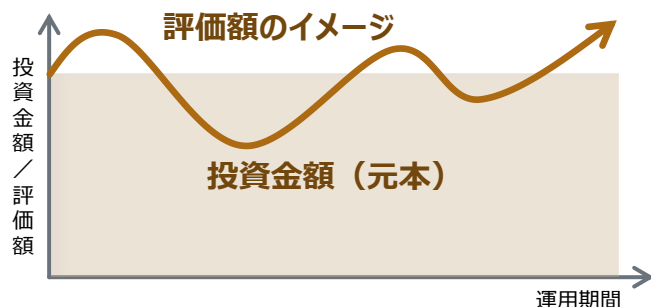
2 インド株式への投資手法 ～タイミングをとらえる一括投資とタイミングを意識しない積立投資～

- インド株式へ投資してみたいけれど「投資するタイミングが難しい」、「まとまった資金がない」など不安を感じる方もいらっしゃると思います。
- このような不安を解決するひとつの手段が「積立投資」です。

	まとまった資金で一度に購入	積立投資を利用
購入単価	購入時の単価が適用されます (購入口数は投資金額÷購入時点の単価)	毎月定額で追加購入していくので、 購入単価が平準化されます (購入口数は各月の投資金額÷単価を累積)
このような方に	まとまった資金をお持ちの方 投資タイミングをとらえて投資 をする方	少額から投資を始めたい方 これから資産を形成していきたい方 投資タイミングを意識せずに投資 をしたい方

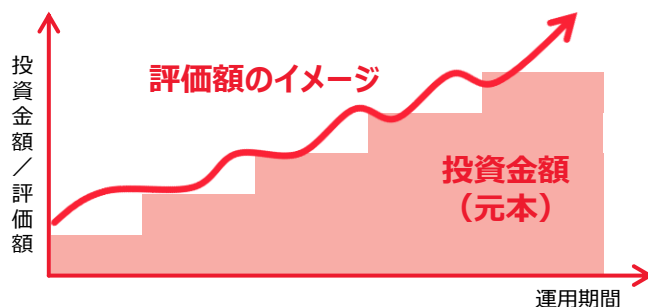
まとまった資金で一度に購入する場合

- 最初にまとまった資金が必要
- 投資タイミングが運用成果を左右
- 評価損益の変動幅が相対的に大きい



積立投資を利用する場合

- コツコツと資金を積み立てて投資を始められるため、長期の資産形成に役立つ
- 投資タイミングを分散
- 評価損益の変動幅が相対的に小さい



評価額は投資金額（元本）の時価評価額の推移をイメージしたものですので、必ずしも利益になるわけではなく、損失を被る場合もあります。上記は、投資のイメージをご理解いただくために、評価額および投資金額（元本）の推移を単純化して記載しております。全てのケースについて網羅したものではありません。

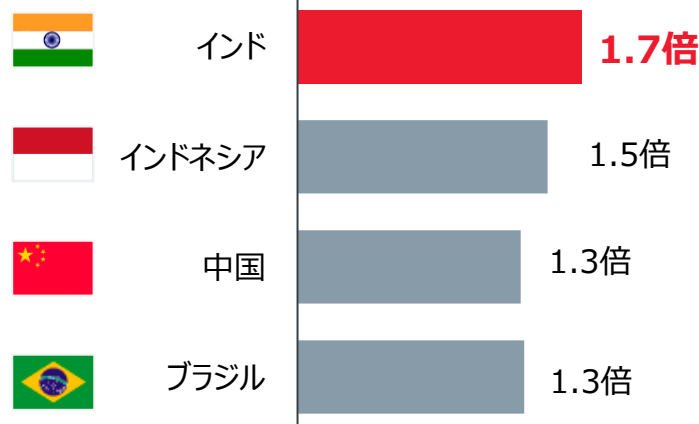
- 長期投資では、短期的な値動きではなく、長期的な経済成長の恩恵を期待することも重要です。
- 過去においては、名目GDP成長率の高い新興国の株式が大きく上昇していたことが分かります。
- 2022年末から6年間の名目GDP成長率を見ると、インドは約1.9倍に成長すると見込まれており、こうした経済成長を背景に株式も値上がりすることが期待されます。

名目GDP成長と株価上昇
(2000年末～2022年末)

国・地域	名目GDP成長	期間の株価上昇
インド	12.5倍	21.4倍
インドネシア	13.0倍	28.2倍
中国	12.2倍	2.3倍
ブラジル	8.3倍	7.2倍

今後5年間の名目GDP成長予想
(2022年末～2027年末*)

5年間でインドのGDPは約1.7倍に拡大



出所：IMF世界経済見通しデータベース（2023年4月）、Bloomberg L.P.データに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

株価上昇のインドはSENSEX指数、中国は上海総合指数、インドネシアはジャカルタ総合指数、ブラジルはボエスバ指数、現地通貨ベース、ネット配当込み。

*GDPは2023年以降は予測値、現地通貨ベース。上記は、投資のイメージをご理解いただくために、一般的な例として記載しております。全てのケースについて網羅したものではありません。

当資料のデータ・分析等は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の投資成果および市場環境の変動等を保証するものではありません。

☑ タイミングを気にせず始められるインド株式の積立投資

5

世界金融危機前の高値から始めても利益が出る積立投資

- たとえば、世界金融危機前の高値で投資を始めたAさんとBさん、世界金融危機後の安値で投資を始めたCさんがどのような投資成果をあげることができたのか、シミュレーションしました。

インド株式（円換算ベース）と積立投資による平均購入単価の推移



出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。インド株式市場はSENSEX指数（ネット配当込み）を使用。2005年12月末を100として指数化。期間：2005年12月末～2023年7月末。インド積立投資（平均購入単価）は2007年10月末～2023年7月末。
*2005年12月末～2009年12月末の4年間における高値と安値を使用。積立については、毎月末に一定額を追加購入したと仮定した場合の平均購入単価の推移を表示（各種費用や税金等は考慮せず）。実際に上記指数には直接投資できません。

世界金融危機前の高値から毎月3万円積立投資した場合と一括投資した場合のシミュレーション (2023年7月末時点)

		投資開始 時期	投資金額 合計 (万円)	評価額 (万円*)	投資損益 (万円*)	騰落率
Aさん	高値から 積立投資を開始	2007年10月末	570	1,758	1,188	208%
(ご参考) Bさん	高値で 一括投資を開始	2007年10月末	570	1,369	826	145%
(ご参考) Cさん	安値で 一括投資を開始	2009年2月末	570	4,686	4,116	722%

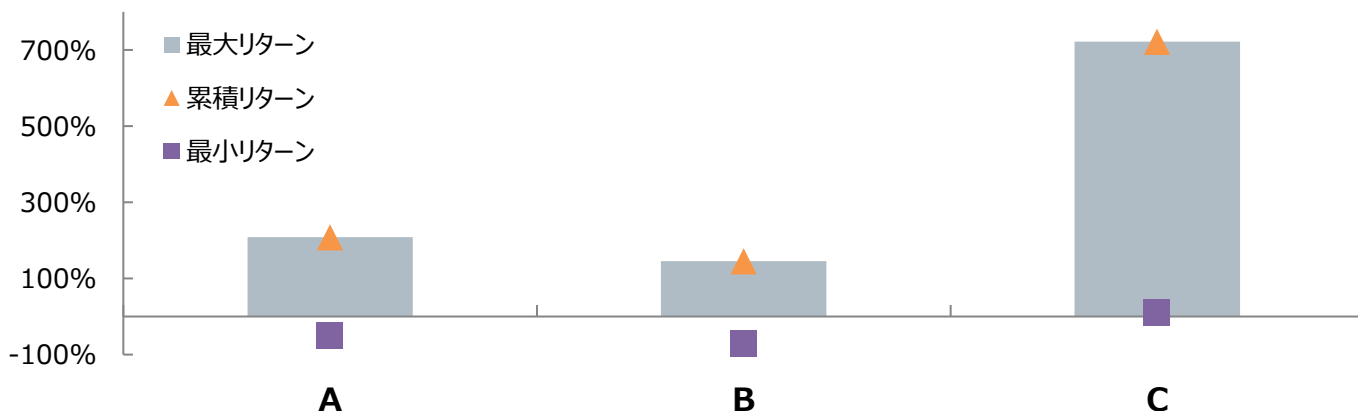
上記は積立投資をご説明するための試算です。積立については、毎月末に3万円を追加購入したと仮定した場合の平均購入単価の推移を表示（各種費用や税金等考慮せず）。積立投資は、値動きの大きい資産でも購入タイミングを分散することで、価格のブレを抑え、購入単価を平準化することで、値上がりした際により大きな利益が期待できます。相場が継続して上昇した場合等、積立投資よりも一括投資の方が有利な場合があります。投資方法に関わらず、投資対象の評価が平均購入単価を下回った場合には損失を被ります。積立を継続した場合にリターンが向上すること、または将来の運用成果を保証するものではありません。

*10,000円以下を四捨五入して表示。

☑ 値動きの大きいインド株式こそ積立投資が有効

- 一括投資は、タイミングをうまくとらえることが出来れば大きなリターンを見込めますが、タイミングを間違えると損失が大きくなります。
- 積立投資は投資タイミングを意識せずに損失を抑えながらリターンを上げられる傾向があります。

投資期間中のリターン分布*



	Aさん (高値から積立投資)	(ご参考) Bさん (高値で一括投資)	(ご参考) Cさん (安値で一括投資)
累積リターン	208%	145%	722%
最大リターン	208%	145%	722%
最小リターン	-50%	-70%	12%

出所：Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。SENSEX指数（円換算ベース、ネット配当込み）を使用。

投資期間：AさんおよびBさんは2007年10月末～2023年7月末、Cさんは2009年2月末～2023年7月末。リターン計測期間はそれぞれの投資期間。

*月次リターンベース。全て2023年7月末時点で計算。最大、最小リターンは投資開始来の各月末において、期間中にリターンが最大、最小となった値。

実際に上記指数には直接投資できません。上記は、一定の前提のもとで計算したシミュレーションであり、実際のパフォーマンスとは異なります。また、将来の運用成果等を保証するものではありません。



うまく投資のタイミングをとらえることができれば、大きなリターンが期待できます。ただし、タイミングを図るのはなかなか難しいものです。だからこそ、インド株式のように値動きの大きい株式投資には、投資タイミングを気にしない「積立投資」が有効と言えます。また、成長が期待できる資産に長期投資することも重要です。

[当資料に関して留意いただきたい事項]

- 当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。
- 当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日時時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料では、個別企業に言及することがありますが、当該企業の株式について組入の保証や売買の推奨をするものではありません。
- 当社による事前の書面による同意無く、本資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。